

# IPV被害妊婦への早期対応に向けた助産師のための教育プログラムの開発とその効果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯島, 亜樹 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003364">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003364</a>

## 論文内容の要約

学 生 番 号	3218002	指導 教員 確認	主 査	飯島 佐知子 教授
氏 名	飯島 亜樹		副 査	伊藤 隆子 教授
			副 査	高橋 眞理 特任教授

学 位 論 文 名	IPV 被害妊婦への早期対応に向けた 助産師のための教育プログラムの開発とその効果
訳 タ イ ト ル	Development and effects of educational program for midwives on early response to pregnant victims of Intimate Partner Violence
共 著 者	
論文内容の要約 (1,000 字~1,500 字)	
<p>【目的】 妊娠期は、Intimate Partner Violence (親密なパートナーからの暴力、以下、IPV) 被害の契機や悪化につながりやすいため、妊婦健康診査 (以下、妊婦健診) で IPV 被害妊婦と接する機会の多い助産師によるプライマリーな支援は重要である。しかし、助産師に対する IPV 教育は、これまで机上や対面での知識教育に限られてきたため、臨床現場で助産師が IPV 被害妊婦への対応を実践することは難しい状況である。そこで、本研究では、助産師が IPV 被害妊婦への早期対応実践のためのオンライン教育プログラムを開発し、その効果を検証することを目的とした。</p> <p>【方法】 本研究の構成は、インストラクショナルデザイン ADDIE モデルに準じ、分析、設計、開発、実施、評価の手順によって実施した。まず第 1 段階で、IPV 被害妊婦と支援者である助産師双方への妊娠期 IPV 現状把握調査 (研究 I - 1、研究 I - 2) を実施し、助産師が IPV 被害妊婦への支援を実践するには「IPV 被害妊婦の特定」と「初期対応」が重要であることを明らかにした。そこで、第 2 段階では、豪州で教育効果が保障されている教育プログラム (ANEW) (Gunn J. et al., 2006) を基盤とし、「IPV 被害妊婦の特定」と「初期対応」を含めた 15 分程度で構成された 3 セッションの動画視聴と、臨床現場で IPV 被害妊婦との遭遇場面の事例を用いたオンラインによるディスカッションを設計・開発し、一群の Before and After Study によって、助産師 9 名を対象にその効果を定量・定性的に検証した (研究 II)。なお、介入効果は、プログラム前後の質問紙調査および、プログラム終了 2~3 週間後のインタビュー調査にて、助産師の IPV 被害妊婦への初期対応能力の変化、IPV に対する学習意欲の変化、及びプログラム教材の有用性について検討した。</p> <p>【結果】 プログラム受講後は受講前より、助産師の『妊婦から IPV の手掛かりを得ようと意識して関わる』、『IPV 被害を受けている女性を特定する』、『妊婦が自身の問題について話すように促す』、『他の医療従事者と情報を共有する』、『妊婦が意思決定をするための情報を提供する』に対する自己評価が有意に高まっており (<math>p &lt; .05</math>)、IPV 被害妊婦への対応力の変化が示された。さらに、受講した助産師自身の【IPV 被害妊婦への対応の自信】にもつながっていた。一方、助産師の学習意欲に対する介入効果は、定量的には示されなかったが、インタビュー調査から、受講者の【さらなる学びへの意欲】へとつながっていた。しかし、「自分だけが知識を得てもどうにもならない」という《スタッフとの協働性の不足》や、《自然なコミュニケーションの難しさ》が語られ、プログラムの【臨床への活用に対する困難感】への課題も浮き彫りになった。</p> <p>【考察】 本プログラムは、助産師の IPV 被害妊婦の特定と初期対応に関するスキルの習得に有用であった。これまで助産師は IPV 被害妊婦との対応スキルについて評価を受ける機会がほとんどない中、本プログラムでは、この点をオンラインによる反転授業とシナリオ型教材を組み合わせることにより、自身の IPV 妊婦へのコミュニケーションスキルを省察する機会につながったといえる。したがって、本プログラムにおけるアウトプット力を高める学習方略は、臨床現場における IPV 被害妊婦への対応力向上に繋がることが考えられた。</p> <p>【結論】 IPV 被害妊婦の早期対応にむけて助産師のために開発された本プログラムは、妊婦健診の場を活用して被害妊婦の特定と初期対応の実践に対し、効果をもつことが示唆された。</p>	